

45周年
ふるさと海士との架け橋
近畿海士後鳥羽会総会盛大に



石田信行会長からふるさとへ熱き思いを馳せながらご挨拶をいただく。

第45回近畿海士後鳥羽会総会が、9月27日(日)大阪太閤園別館ガーデンホールで開催されました。近畿海士後鳥羽会は、昭和40年の発足以来、今年は45周年という記念すべき年となりました。

当日は、近畿圏域から240名余りの方が参加され、来賓には山内町長、門脇県議会議員、富松西郷会会長、海士町関係者他多くの参加者があり45回目に相応しい盛大な総会となりました。懇親会では、アトラクションが行われ、菱浦すみれ会の皆さんによる郷土民謡の数々やカラオケ、福引き等盛りだくさん

でした。ふるさとへの熱い想いがくらくる尽きることない昔話にあつという間に時が経ち、記念すべき45周年はなごりおしくも盛況に終わりました。近畿海士後鳥羽会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝をお祈りするとともに、今後更にふるさととの大きな架け橋となっていくことを願っています。

(高野美知子)



菱浦すみれ会9名の皆さん45周年を祝い、10余りもの演目を披露。会場は大盛況に!



中村議長のご発声により240名の乾杯!

京の雅、海士にて。〜「平成の歌会」

9月26日、隠岐神社にて「平成の歌会」入賞歌の献詠の神事と、開発センターにおいては歌会の大賞および各賞の表彰式などが行われました。平成の歌会とは、産経新聞社主催、文化庁などが後援する和歌のコンクールで、毎年、京都平安神宮で入賞歌の献詠を行っています。今年は、国内外から2142首の応募がありました。歌題部門(歌題「秋夕」)の大賞には、河野貴恵さん(堺市)の作「龍田姫 手織る錦のみみち葉に おきてはこぼる秋の夕露」。自由部門の最高賞「文部科学大臣賞」には、後藤正樹さん(京都市)の「百人が 綱に舵取る百畳の 凧は定まり地球と向き合う」が選ばれました。

この大会は、「後鳥羽院短歌大賞」(海士町の後鳥羽院顕彰事業実行委員会主催)の姉妹大会となっており、歌題部門では、隠岐後鳥羽院短歌大賞・姉妹賞を千灯子さん(隠岐の島町)が受賞。自由部門では、海士町特別賞を西山博幸さん(大牟田市)、隠岐神社賞を松岡恒恵さん(泉大津市)、隠岐後鳥羽院没後770年式年祭記念賞を大野憲代さん(大田市)がそれぞれ受賞しました。献詠は冷泉家に伝わる「披講の座」により行われました。冷泉家は藤原定家の末裔で、今日まで和歌や蹴鞠の伝統を守る家です。この披講の座による旋律を雅楽器で演奏したものが、隠岐神社で聞かれる「承久楽」です。隠岐神社において、冷泉家による披講は2度目とのこと。開け放たれた隠

岐神社拝殿での古式ゆかしい献詠は、幾重にも重なる歌声がさわやかな秋風に乗り勝田の森に染み渡り、えもいわれぬ風情でした。ところで、いつもは平安神宮で行われる献詠がなぜ隠岐神社で行われたかと申しますと、冷泉家のご先祖、藤原定家と後鳥羽天皇は和歌においては定家の父・藤原俊成に師事しており、勅撰和歌集の撰者に定家親子を後鳥羽天皇が任命するなど、その縁は浅からぬものであり、ちょうど今年には後鳥羽院770年祭ということでも、それならば記念に隠岐神社で...となつた次第です。(交流促進課 山岡真幸)



十二単に身を包んだ女性たちの姿。まるで平安時代にタイムスリップしたかのよう

